

学び合い高め合う子どもの育成

－仲間とのかかわり合いの場における話合いの工夫を通して－

I 研究の内容

1 研究仮説

仲間とのかかわり合いの場において、「話合い」の工夫をすることにより、互いに学び合い高め合う子どもが育成されるであろう。

2 研究の内容

仲間とのかかわり合いの場における「話合い」の工夫をする。

(1) 仲間とのかかわり合いの場について

題材や教材，活動の工夫／場の設定や準備の工夫／教具やワークシートなどの工夫など

(2) 学び合い・高め合うための「話合い」について

課題の意識化及びめあての共有化への工夫／話合いへのステップの工夫／グループ編成や話合いの形態の工夫／支援を必要とする子どもへの手立ての工夫など

(3) 評価について

自己評価の工夫／相互評価の工夫など

II 成果と課題

1 仲間とのかかわり合いの場について

(1) 題材や教材，活動の工夫

児童にとって身近なあるいは日常的な題材，話し合うことの必要性が感じられ自分の考えをもつことのできる題材，児童全員で協力して解決していくことのできる題材などを取り上げることにより，興味関心を引き出し，活性化させることができた。このような活動の体験は，充実感や達成感，所属意識などを高めることにもつながり，他と意欲的にかかわり合いながら学び高め合う姿を見ることができた。

(2) 場の設定や準備の工夫

自発的な活動を促す掲示物など日常的な教室環境の充実が効果的であった。また，話合いの前に計画委員会で柱立てをしておいたり，自分の考えを書かせておいたり，他の活動を見学させたり，メッセージカードを使わせたりするなど，話合いを活性化するための事前の手立ても有効であった。しかし，時間の確保が課題として残った。

(3) 教具やワークシートなどの工夫

掲示物や板書などは，子どもたちにとって視覚的にとらえやすいものが効果的であ

った。また、発達の段階や学習形態にあったワークシートの工夫により、自分の考えの明確化、他との比較、発表の資料、活動の歩みの整理、他のよさや自身の変容への気付きなどが可能となった。評価や支援の資料にもなった。

2 学び合い・高め合うための「話し合い」について

(1) 課題の意識化及びめあての共有化への工夫

課題を意識化させるために、板書やカードを使って明確化した。また、「話し合いでつかう力」を常時掲示することにより意識化させることができた。しかし、課題やめあて、「話し合いでつかう力」など子どもたちに意識させたいものが多く、それらを無理なく理解できるよう、今後も検討を重ね手立てを研究していきたい。

(2) 話し合いへのステップの工夫

まずは、基本的な学習規律の習得、発言の型の提示、聞き方の指導を低学年からしていくことが大切である。話し合いの前の準備や進行表の活用も有効であった。また、自力解決の時間の確保、ペアや少人数で相手を意識しながら伝え合う活動、全体での検討など、スモールステップを設けることも有効であった。更に、日常的にスピーチや少人数での話し合い、相手を意識し根拠を明らかにしての説明などに取り組むことが力の向上に役立った。

(3) グループ編成や話し合いの形態の工夫

ペアや少人数の設定は、どの子にも発言の機会を与えることができた。内容によっては、類似した考えのグループ構成も効果的であった。話し合いを行うときの座席配置は、互いの顔を見て集中して話し合うことができ、教師の机間巡視もしやすいコの字型が効果的で、これは評価や支援にも有効であった。

(4) 支援を必要とする子どもへの手立ての工夫

自分の考えがなかなかもてない子には、経験の振り返り例示が、発言を苦手とする子どもには、事前の記述が効果的であった。話し合いのスモールステップ（ペア、少人数、全体など）も発言の機会を増やすことになり、全体のレベルアップにつながった。また、学級全体での認め合う雰囲気や相手のことを考えた言動も重要な要素であることが改めてわかった。

3 評価について

自己評価については、課題やめあて、「話し合いの中でめざす力」を常に意識させるためにも、ふりかえりカードが役立った。1枚ポートフォリオは、事前・取組期間中・事後の自身の変容もとらえることができた。また、教師の子ども理解や評価、支援にも役立った。

ワークシートやメッセージカードなどを使った相互評価は、時間の確保が課題であるが、互いのよさの認め合い、更なる改善への気付き、次の学習への意欲の喚起など、多くの効果が確認された。

(研究主任 三枝清美)